

概要

呼吸機能（スパイロメトリー）検査に加え、医療用ガスを使用して肺の状態をさらに詳しく調べる検査です。

検査方法

マウスピースを口でくわえていただき、鼻をノーズクリップで挟んで閉じ、口呼吸で検査を行います。担当技師の声掛けに合わせて息を吸ったり吐いたり、止めたりしていただきます。

検査で分かること

呼吸機能（スパイロメトリー）検査の2種類に加え、最大3種類（患者様により異なります）の検査を行っています。

1. 肺活量

最大限大きな呼吸をした際の空気の量を調べます。

2. 努力肺活量

勢いよく息を吐き出していただき、1秒間に吐ける息の量を調べます。

3. 機能的残気量

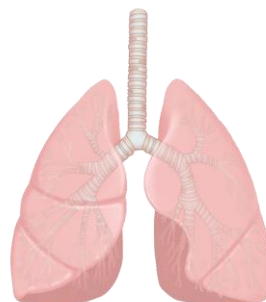
息を吐き切った時の肺の中に残っている空気の量を調べます。

4. 肺拡散能

肺の中で酸素と二酸化炭素の交換が効率良く行われているかどうか、またその程度について調べます。

5. クロージングボリューム

重力の影響により、肺の上の方と下の方では空気や血液の量が異なります。このバランスを調べたり、肺の奥にある細い気道が閉塞していないか、またその程度について調べます。



注意事項

・患者様の努力次第で検査結果が変わることがあります。最大限の呼吸をしていただきますので苦しい検査ではありますが、正確な検査結果を得られるように可能な限りご協力をお願いします。

・コルセットなど締め付けが強いものの着用により最大限の呼吸が難しい場合には、緩めていただくか、外していただく場合があります。

所要時間

約 40 分程度

よくある質問

Q：上手くできないのですが、私だけですか？

A：日常であまりしない口呼吸をお願いしておりますので、何度か検査を行うこともあります。担当技師が声をかけて検査を行いますので、そのタイミングに合わせてできる範囲で行っていただければ問題ありません。



呼吸機能精密検査

Q：検査に使用しているガスは体に害はないですか？

A：検査中に吸っていただくガスの中にはヘリウムなどが含まれていますが、その量はごくわずかであり、体に悪影響を与えることはありません。

Q：検査の間隔を空けるのはなぜですか？

A：検査時に医療用ガスを吸っていただくため、一度検査を行うと肺の中にガスが残っている可能性があります。時間を空けずに検査を行った場合、肺の中に残ったガスの影響により正確な検査結果が得られない場合があります。肺の中の空気の換気を行う時間として約5～10分程度、時間を空けて検査を行うようにしています。

Q：入れ歯をしています、問題ないですか？

A：問題ありません。マウスピースがくわえにくいなどがある場合には外していただいても構いません。